

第8期介護保険事業計画に 向けた課題の整理

■第8期介護保険事業計画に向けた課題

アンケート結果や実績等から見えた課題と、新たに第8期介護保険事業計画に向けた課題として考えられるものを記載しました。

課題1	<p>★認知症施策の更なる推進</p> <p>認知症高齢者の増加が予測される中、認知症になっても地域で暮らせるよう、認知症についての理解を深め、本人や家族を支援する取組を推進する必要がある。啓発だけでなく、地域の認知症の人に対し、もう一步踏み込んだ声かけ、関わり、支援が行えるよう、活動に結びつけていくことが必要ではないか。また、通いの場なども求められる。</p>
課題2	<p>★通いの場の拡充</p> <p>地域の住民主体の通いの場を増やすことにより、身近な人と共に身近な場所で、運動や認知症予防、人との交流を促進することが出来る。このことが、フレイル予防(※1)となり、地域づくりの1つとなる。また、通いの場を活用した保健事業を拡充(※2)し、支援が必要な方への専門職支援を受けやすくする。</p>
課題3	<p>★ショートステイの充実</p> <p>ケアマネジャーが不足していると感じているサービスとしては、「短期入所生活介護」が最も高い。働きながら介護をしている家族介護者が多くなっている。在宅介護を支援するためにも、ショートステイは重要なサービスであり、充実が求められる。</p>
課題4	<p>★複合的な課題への包括的相談・支援</p> <p>いわゆる8050問題、貧困、障がいなど複合的な課題へ対応できる包括的な相談・支援体制が必要となっている。</p>
課題5	<p>★権利擁護の体制の充実</p> <p>利用しやすく、また、安心して利用できる成年後見制度等の体制および後見人等を支援する体制を充実していく必要がある。</p>
課題6	<p>★生活支援サービスの充実</p> <p>一人暮らし、高齢者夫婦世帯が増加する中、移動支援、買い物、軽微な支援、見守りなど日常生活支援の充実がより必要になる。</p>
課題7	<p>★災害や感染症対策の体制整備</p> <p>近年の災害発生状況や、新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえ、これらへの備えが必要である。</p>
課題8	<p>★認知症の人の尊厳保持と地域での共生をめざす</p> <p>認知症である者が地域社会において尊厳を保持しつつ、他の人々と共生することができる社会参加活動や認知症予防のための体制整備の支援。</p>
課題9	<p>★介護給付適正化事業の推進</p> <p>滋賀県国民健康保険団体連合会と連携し介護給付費の適正化に努めているが、介護給付費は増え続けており、主要5事業の点検などの更なる取組が必要。</p>
課題10	<p>★介護用品支給助成事業</p> <p>介護用品の購入に対する負担感を軽減し、在宅生活(介護)を推進するため、要介護者を介護する家族等に対し、介護用品購入費用の一定額を助成しているが、厚生労働省から介護保険事業の対象外とする通知が発出されていることから、事業を見直す必要がある。</p>

※1 フレイルとは、いわゆる虚弱という意味。身体的フレイル、認知・精神的フレイル、社会的フレイルの3つの要素がある。

※2 保険事業の拡充とは、75歳以上の方への保健指導を、通いの場を活用し実施していく。